

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流」を理念に取り入れている。	○ 理念について具体的に実践方法を話し合い、行っていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を入口に掲示している。 理念を毎朝提唱し、実践に向けて努力している。	○ 職員は理念を覚えてはいるが、それを日々の生活の中でもっと活かせるように、互いに協力し合って向上してきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	推進会や入居に際する説明のなかでお話している。	○ 以前から入居されている方のご家族とはとりたてて理念とっては説明していないので、皆さんにひろく理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺の散歩時に、近隣の方がたと挨拶をかわしたり、その時々話題で会話ははずみ、入居者に笑顔もみられる。	○ ホームの方にも、気軽に来ていただけるように声かけを実施していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭や行事には、進んで出かけている。	○ 入居者・職員が参加できるものは可能な限り、どんどん参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の理解を得られるように努めていきたい。	○	普段から馴染みの関係を作っていきたい。地域の人から話やすい状態を作っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価された内容については、改善できるものは取り組んでいる。	○	評価されたことに対して、皆で協力して改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において、評価の報告をし、サービス向上について話し合っている。	○	推進会からの提案の中で実行に至っていないことを進めていかなければならない。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外では、担当者との行き来は広報活動や書類提出時が主である。	○	サービスの質向上に向けて努力したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々に勉強している職員もいるが、全体には浸透していない。 現在、利用している人や必要とする人はいない。	○	勉強会を開き、全職員が制度について理解し、必要な人がいたら適切な支援ができるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束の無い介護をめざし、職員一丸となり実践している。	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会があれば、勉強していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申込時に説明している。わからない事や不安があれば、その都度に対応し解決している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの不満、意見が十分に表出されていない。</p>	<p>○</p> <p>意見や苦情を遠慮せずに口にできる関係を作り、運営に反映させていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>話やすい関係を築くように努力している。面会時などは、日々の様子を話している。預かり金は、出納帳に記入し、来居された時に確認してもらい、サインをいただいている。</p>	<p>○</p> <p>気さくに話せる信頼関係が作れるように努力していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱を設置している。 推進会や面会時の会話の中で得た意見などは反映させる努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>どんどんと意見や苦情を言ってもらえるような場を設けていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案は、管理者が聞いた上で話し合いの機会を設けている。適宜、運営者に報告し、反映に努めている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に全員参加の会議の場を持つようにする。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>業務改善に努めている。</p>	<p>○</p> <p>柔軟な対応ができるように、勤務形態などを調整したい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットはほぼ固定の形にしているが、出勤の形態によっては他ユニットでの勤務はある。ダメージを防ぐ為に2ユニット全体でなじみになれるように行き来している。 利用者の顔ぶれも変わる為、職員配置の微調整はしている。</p>	<p>○</p> <p>職員と18名の利用者全員が馴染みになれるよう、また、職員は全利用者を把握できるようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員より希望があれば、研修会への参加を認めている。 法人内の研修会にも参加してもらい、感染予防や栄養面での知識をつけてもらうよう指導している。	○ 認知症ケアについてもっと院外での研修を取り入れ、さらなるケアの質の向上できる人材の育成に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加し、積極的に勉強会に参加してもらうよう指導している。	○ 他のグループホームとの交流を活発に行えるよう計画を立て職員の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に2回法人全体での食事会を開いている。 法人でフットサルのチームを作り、自由な参加を募っている。	○ 風通しの良い職場環境をつくり、問題点等を職員間で言いやすいように努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の実績を人事考課において評価し、モチベーションを上げられるように努めている。	○ 定期的に職員を集め、勉強会やミーティングを行い、各自スキルアップできるようにしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来られたり、入居申し込みから入居日までに日数がある方に対しては、自宅や入院先を訪問し、お話を聞かせてもらっているが、信頼関係までには至っていない。 相談、即入居のことが多い。	○ 入居までに本人とコンタクトをとれるようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込時に詳しく話を聞いている。その時に施設の案内・説明をわかりやすくしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を聞いたり、情報提供書や支援に携わってきた方の情報をもとに、社会資源の活用も含めた支援の方法を考えている。	○	ミーティングなどで、本人に合ったサービスを話しあって、安心して生活していただけるように支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の情報を家族から聞いて、少しずつホームに慣れてもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーション・談話中に昔の出来事など聞かせてもらい、その中から話が広がり共に感じあっている。	○	今以上にコミュニケーションをとり、信頼関係を強めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	接していて、本人が悩んでいるとき、家族に連絡が必要であるかを判断し、連絡をとっている。	○	情報を共有しながら、一緒に良い方向に進めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、本人の最近の様子(受診・体調など)を伝えていく。 各部屋で、自由にお話されている。	○	職員も話やすい状況を作っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を決めずに、家族・知人・近隣の方に自由に交流できるように努めている。	○	馴染みの方が、来やすい状況を作っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く支えあうように努めているが、個人の性格にともない難しい状況の方もいる。	○	全ての人が満足できるのは、難しいができるだけ、多くの方に楽しく過ごしていただけるように、努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で退居されても、訪問して近況を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中で声かけ、会話の中から困難なことは、職員や家族との話し合いの中で希望が叶うように努めている。	○	知り得た情報を職員間で共有し、検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんに話を聞き、職員間で共有している。	○	普段から信頼関係を築けるように、努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	普段から体調や食事量をチェックし、行動を見守っている。体調不良時には、受診に付き添って行っている。	○	毎日、単調に過ごされている。楽しく過ごしていただけるように、努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とは話をしたり、日常の生活の様子や他の利用者との関わりを見ながら意向や課題を把握し、また、家族からも要望を聞いたり、相談をして作成するようにはしている。	○	意見を引き出す技術を身につけたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて3ヶ月に1回の評価、見直しを行っている。各利用者の担当職員は毎月、介護経過とともに、目標の達成度、今後の対応をモニタリングしているので、変化があれば、家族に相談したり、職員間で話し合って対応している。	○	変更した計画書を迅速に作成しなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて、月単位の生活記録、モニタリングを作成しているため、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の出来事や様子の記録内容が乏しいので、書き方を学ぶ機会を持ち、誰が読んでもよくわかるよう充実させたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人を活かし、緊急の対応や急変時には病院に連絡し指示をうけて、対処している。 また、訪問看護ステーションとの医療連携体制により日々の健康管理、相談を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方との協力関係ができた。	○	地元の学校との協力、サークル活動の計画があるので、実践していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	県、市町村のサービスを利用し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連絡を取りながら、本人の必要性に応じた支援をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人である母体で受診している。歯科・皮膚科の医療関係の往診受診も受けている。本人の希望で、入居前にかかっていた歯科に行かれている人もいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週一回専門医の往診をうけ、経過報告をして、指示をうけている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間体制の訪問看護の体制ができている。異変時は訪問看護や病院に連絡をして指示をうけている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院との情報交換を密にし、安心して過ごしていただけるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に文章にて確認してもらっている。 また、早い段階から医師に相談したり、家族に状態を報告し、話し合いを行って方針を確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に向けてホームでできること・できないことを見極めて医師、看護師と相談しながら支援するようにしている。	○	ホームでは、なかなか難しい点があるが、慣れ親しんだ所でもあるので、ターミナルケアにも取り組んでいけたらと思う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設に移り住む時、本人に関する日常的な情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに、思いやりのある態度・声かけをするようにしている。職員間で、話し合いをしながら、記録にも配慮している。	○ 講習会などに参加して、勉強していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の会話のなかで、思いや希望を聞き、実施に向けて支援している。	○ 多くの利用者の思いが、叶えるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立支援に向けて援助している。本人のペースを大切にしている。	○ 時々、職員側の都合が優先している事があるので、直していきたい。(あせらず、待つという気持ちを持って)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は、月一回ホーム内へ来てくれている。本人の希望があれば、近くの理髪店へ出かけている。洋服やおしゃれ小物を買ったり、化粧をしたり、自由に楽しんでいる。	○ いつもその人らしい身だしなみ・おしゃれができるように支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り自分で食べられるように援助している。無理な時は一部介助している。ほんの少人数ではあるが、片付けをしてくれている。今年に入り、昼食の一品を利用者の方に作ってもらっている。	○ 昼の一品を作ることで、昔を思い出してもらえるよう、また、自信を持ってもらえるよう期待している。利用者の間を取り持ったり、声かけに配慮している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾病等もあるので個人の体調に合わせて支援している。コーヒー・おやつ等は本人が望む時に出している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介助者は、排泄表を確認し、パッド内に失禁が無いようにし、快適に過ごせるよう心がけている	○	排泄の失敗をなくしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を参考に最低週2回の入浴を心がけている。声かけをしてゆったりと入ってもらっている。自分で入浴できる方には曜日や時間を決めておらず、浴室が空いておればいつでも好きな時間に入浴してもらっている。風呂掃除から洗濯までされる方もいる。	○	入浴は自由だが、まかせきりにせず、バイタルや体調のチェックと入浴中の様子を伺い、事故のないように注意する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に体調の変化に気をつけている。夜間トイレの多い人・不眠気味の人などは、見守り対応している。	○	往診時にDrに相談して、指示をうけて職員間で共有している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	トレー拭き、ふきん干しなど手伝ってくれている。入居者の一人が取り仕切っている傾向があるので職員が中に入り調整している。	○	それぞれの得意分野を活かした支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は持たれている。ほとんどの方が預かり金により、金銭出納を行い、面会時に家族に確認してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、配車の都合がつけば、ドライブに出かけたり、駐車場で日光浴をしている。	○	外出機会を多くつくり、季節を感じてもらえるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望があれば、身内の方に会いに出かけ、家族の方が迎えに来られ、外出は自由にされている。	○	今年は家族や地域の方にも呼びかけて、全員での外出(遠足)をしてみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば、職員が電話をかけ要件を伝えている。電話の音が、聞きにくいとの事で、職員が代わっている。	○	今以上に、家族との連絡を密に行っていくようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由でいつでも訪問でき、居室でお話されている。	○	外部から気軽に訪問しやすい環境を協力してつくってきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合に備え、家族に身体拘束の同意書はもらっているが、身体拘束をせず、転倒の危険や不潔行為のある人には、職員がたえず気配り(目配り)をして見守っている。	○	職員間で、情報を共有して取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前に国道があり、交通量も多いので玄関は施錠している。本人が希望すれば職員と一緒にでている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への訪室にはノックをして入室、声かけて入室を行っている。	○	これからもプライバシーを尊重していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持ち物チェックは行っている。危険な物(はさみ・針)は、預かるようにしている。縫物するときは、職員が見守るようにしている。	○	料理で包丁を使用するときは、職員と一緒にワイワイ話しながらしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止の為、夜間帯に立位が不安定な方にはコールで知らせてもらうよう説明している。誤薬に関しては、氏名・日付・服用時間・薬の種類等確認し服薬チェックに記入している。	○	これからも注意を払っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、一部の職員は講習会にも参加している。 しかし、定期的な訓練は行っていないため、全ての職員が周知してはいない。	○	講習会などに参加して、知識・訓練を身につけられるよう努力していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練を行っている 避難や二次事故の回避の為の協力体制などを地域推進会などで話し合いを進めている。	○	定期的に関係者の協力を得て、行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に起こり得るリスクの可能性については説明はしている。 職員間では常にリスクを予測したケアに努めている。	○	予測のつかない事もあり得るので、家族との連絡を密にしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、観察によって体調の変化や異変の早期発見に努めている。発見時は訪問看護の指示や直接医師の指示を受け、早期対応に結び付けている。また、家族に連絡して、経過報告をしている。	○	日頃から気をつけて見守っていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方箋のコピーと説明書をいただき役の確認をし、投薬管理表にて管理している。各個人別にケースに薬を一回ずつ服用するように、朝昼夕の色分けをし、また各Drの氏名を明記している。	○	個人の情報を共有し続けていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表の確認と本人の訴えにより調整している。食事量や水分量にも注意し、また歩行運動やラジオ体操で体を動かすよう支援している。	○	10時・15時の体操には、誘いあって参加してくれている。ほとんど定着している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけし、口腔ケアの介助を行っている。義歯はポリドントを使用している。	○	継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、水分量のチェックを行い、食材や一人ひとりの咀嚼や嚥下の状態に合わせて、刻んだり、とろみをつけたりと形態を工夫している。必要量が食べられない方には、濃厚流動食品で補っている。	○	今後とも取り組んでいきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策をマニュアル化し、互いに注意喚起している。インフルエンザについては、職員・利用者接種をうけている。	○	身近にできる事、手洗い・うがいをしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員一人ひとりが注意を払っている。おしぼりや台所用品もハイター漂白している。	○	賞味期限のチェックはこまめに行っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族や近隣の人が入りやすいよう、開閉押しボタン式ドアにしている。また玄関入口とホールの中に扉があり防犯にも役だっている。夜間時照明を明るくし、不審者の防犯対策している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の壁には、入居者の手作りの作品や行事や外出時の写真を展示している。玄関にはプランターに花を植え四季感を取り入れている。トイレ掃除、ペーパーの補充等は常時注意している。	○	今後とも取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの南側にソファを置いてテレビを見られている。日当たりも良いので日光浴も楽しんでいる。	○	自宅にいるように寛がれている。見守っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品を持ってきたり、新しく購入したり、利用者一人ひとり持ち込んでいる物がちがう(布団・枕・家具等)。写真や小物を置いたり、家族と相談しながら居心地のよいように工夫している。	○	居室は、好きなように使ってもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールにおいて温度計・湿度計を設置し、換気に努め、温度調節は利用者に合わせるようにしている。乾燥対策として、居室においては濡れタオルをかけ、フロアでは洗濯物を干したりしている。	○	換気など、まめに行い、気持ちよく過ごしてもらえるように気を配っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置(ホール・廊下・居室・トイレ・浴室)の他、フロアはほぼバリアフリーである。居室内では身体機能にあわせて家具やベッドの配置をし、安全で自立した生活ができるように工夫している。	○	環境整備に努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室の標示をわかりやすくし、各居室の入口には、名前を大きく表示したり、干支やリボン、人形など、独自の目印をつけ、わかりやすく工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階エレベーター横にソファを置き、外の景色を楽しんでいる利用者がいる。玄関横で日光浴を楽しんだり、駐車場も運動会・避難訓練などの行事に活かしている。	○	畑を作りたい。 2階ではベランダを有効利用したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節の移り変わりを肌で感じてもらうために、手作り弁当・おやつ等をもって外出している。その人の持っている残存能力を活かした取り組みをしている。これからも、幅を広げていきたい。